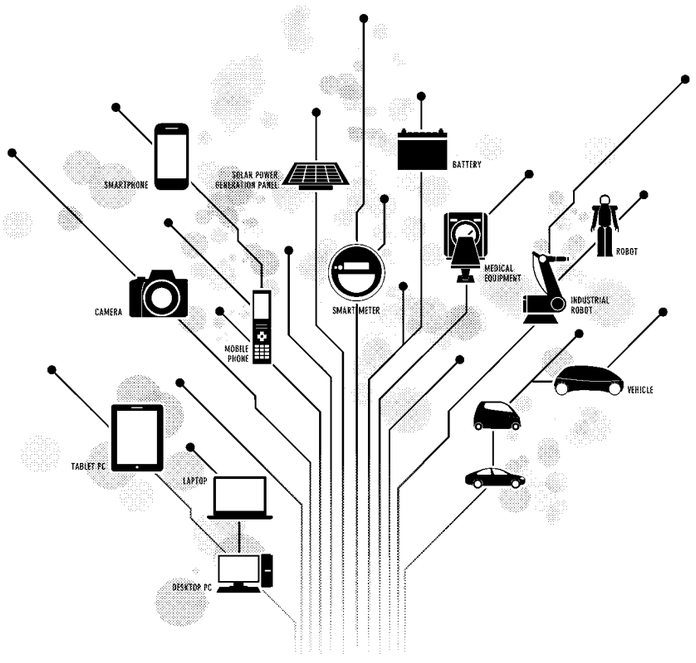
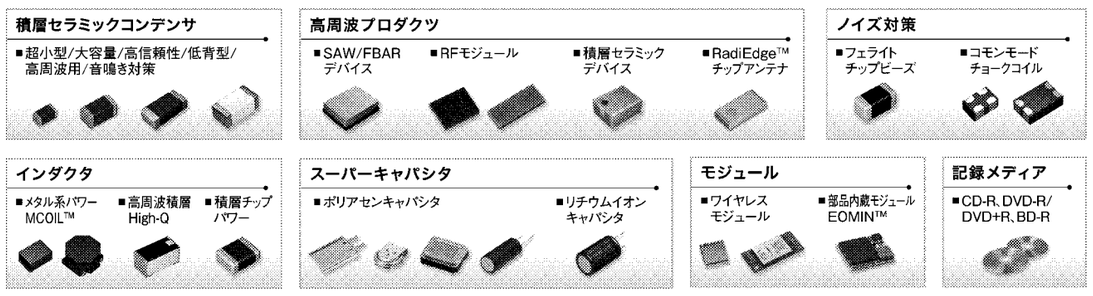


Smart for Future

次のスマートを提案する
太陽誘電の
スーパーハイエンド商品



TAIYO YUDEN
http://www.ty-top.com
〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番20号 松村ビル　TEL:03-3833-5441(代)

～優れた立地特性とビジネス環境を
兼ね備えた東日本のゲートウェイ～

さいたま市

企業の皆様と事業活動を
「まもり、まねいて、そだてます」

○事業拠点としての、さいたま市の強み

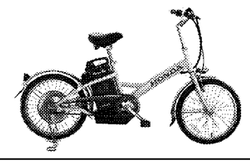
・災害に強い立地環境
　内陸に位置する、地震に強い地盤
・優れた交通インフラ
　発達した鉄道網、高速道路網による都心アクセス
・きめ細やかなサポート体制
　事業用地の提案から、立地後の支援まで

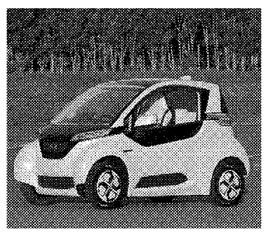
SAITAMA CITY LEADING-EDGE
さいたま市テクニカルブランド企業誘致事業

スマートグリッド展
小間番号 SC-19

「暮らしやすく、活力のある都市として、継続的に成長する環境未来都市の実現」を目指して
「次世代自動車・スマートエネルギー特区」

・ハイパーエネルギーステーションの整備
　多様なエネルギーを供給、災害時も燃料供給可能な施設の整備
・低炭素型パーソナルモビリティの普及
・スマートホーム・コミュニティ
　次世代自動車／スマートホームの普及





さいたま市環境局環境共生部
環境未来都市推進課
TEL：048-829-1457

さいたま市経済局経済部産業展開推進課　TEL：048-829-1349（直通）
http://www.saitamacity-business.jp
さいたま市

スマートコミュニティー
巨大市場に成長見込む

国内外でスマートコミュニティー（次世代社会インフラ）事業が動きだしている。エネルギーを地域全体で管理し、上下水道や交通インフラ全体を最適に機能させるため、幅広い分野に需要が生まれる。実ビジネスになりつつあるスマートコミュニティーの市場動向を紹介する。

40兆円規模に

富士経済（東京都中央区）は2020年に世界のスマートコミュニティー関連市場が40兆円規模になると予測する。欧米、日本に続いて台湾、シンガポールなどアジアでもプロジェクトが本格化し、11年比2・5倍に成長する。エネルギーや水資源を無駄なく有効に使うスマートコミュニティーが世界各地に出現すると再生可能エネルギー、蓄電池、スマートメーター、エネルギー管理システム（EMS）、水処理、次世代交通インフラの需要が生まれる。

他にもいくつかの調査機関が市場規模を予測している。どこまで関連の製品・サービスを含めるかによって規模は変わるが、電気自動車（EV）まで入れると1500兆円超という見通しまである。いずれにしても巨大市場への成長は間違いなさそうで、幅広い分野に波及効果が期待できる。

日本でも市場が立ち上がってきた。全国各地に50件以上のスマートコミュニティーが計画されている。その多くが再生可能エネルギーやEMSを活用する。

三井不動産が千葉県柏市で開発中の「柏の葉スマートシティ」は先進的な事例となりそうだ。太陽光発電や風力発電の再生可能エネルギー設備、蓄電池を備え、EMSが地域内のエネルギーを最適に管理する。停電発生時には蓄電池やガス発電機から電力を供給し、地域のエネルギーを賄う。14年春の稼働予定だ。

被災した東北地方の自治体を中心に災害に強いスマートコミュニティー導入の機運が高まっている。福島県会津若松市、富士通、東北電力は5月1日、同市内でスマートコミュニティー事業を始めると発表した。経済産業省の補助を受けて富士通が全体を取りまとめて事業を進める。計画ではバイオマス発電、メガソーラー（大規模太陽光発電所）を設置。災害発生時には太陽光でEVの電力を賄う。バイオマス発電によるエネルギーの地産地消で地元の雇用創出も狙う。東北地方では他にも宮城県気仙沼市、同大衡村などで国が支援するスマートコミュニティー事業が計画されている。

海外でもスマートコミュニティー事業が動きだしそうだ。明電舎はインドネシアで再生可能エネルギーを有効活用できるマイクログリッド（小規模分散エネルギー網）を離島に構築する事業を検討。東芝は中国の天津市でコジェネレーション（熱電併給）とビルエネルギー管理システム（BEMS）を使った事業を計画している。日立製作所、富士電機、パナソニックなども海外で事業への参入を狙っている。

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の古川一夫理事長は「鉱山開発で道ができて街が生まれた。街づくりが日本の産業の発展を支えてきた」とした上で「スマートコミュニティーは街づくりだ。街づくりの段階にある新興国へのスマートコミュニティーの輸出は日本の産業界の起爆剤になる潜在力がある」と見通す。巨大市場となるスマートコミュニティーは日本の産業界にとっても大きなビジネスチャンスだ。

展示会の見どころ
スマートコミュニティ展／スマートグリッド展
併催「サミット」に注目
内外の実証・成果を発表

スマートグリッド展は2010年から毎年開催し、今回で4回目となる。新しくスマートコミュニティJapan2013の名称に変わり、スマートコミュニティ展も加わった。

同展は展示だけでなく、併催事業が充実しているのも見どころだ。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）とスマートコミュニティ際有グFエ・るトのを市市の長ネ日行える今回は国内外から市長やプロジェクト責任者など代表者が集結する。

29日10時半からの午前の部はスペインのマラガ市と英国マンチェスター市の市長を迎え基調講演を行う。13時からの午後の部では、各国のスマートグリッド団体が結成する国際組織のグローバル・スマートグリッド・フェデレーション（GSGF）の議長や、スマートグリッドの技術情報を共有する国際機構である国際スマートグリッド行動ネットワーク（ISGAN）の議長が登壇。その他、ハワイとインドネシアの事例で現状や成果を発表する。

30日は10時半からフランスのリヨン、米国ニューメキシコ州の取り組みを報告。13時からはアジアを中心とした成長市場への展開をテーマにパネルディスカッションを行う。明星大学理工学部の伊庭健二教授がコーディネーターを務める。

31日10時半からは国内の次世代エネルギー・社会システム実証事業に選定されている4地域の代表が参加。13時からは次世代エネルギー技術実証事業の国内8実証地域がそれぞれの取り組みについて発表する。

その他、29日13時からは「コージェネレーション普及特別セミナー」が行われる。コージェネレーション・エネルギー高度利用センターの柏木孝夫理事長をコーディネーターに、スマートコミュニティー実現の核となるコジェネレーションの普及拡大に向けた取り組みについて議論する。

29日15時半からは林芳正農林水産大臣が基調講演を行う「第2回再生可能エネルギー活用による地域活性化フォーラム」を開催。「食と農林漁業と再生可能エネルギーの未来」をテーマにパネルディスカッションを行う。講演終了後は生態系と共存する人間社会をテーマにしたトーク・音楽・食のシンポジウムライブも開く（参加費は2000円）。

31日13時からは「スマートコミュニティICTフォーラム」を開催する。「情報活用から見える日本の姿、そして未来都市への道すじ」と題し、経済産業省、NTT、SCSK、イーソリューションズが講演する。

サミット、シンポジウム、セミナーは事前登録制で、当日席に空きがあれば聴講可能。

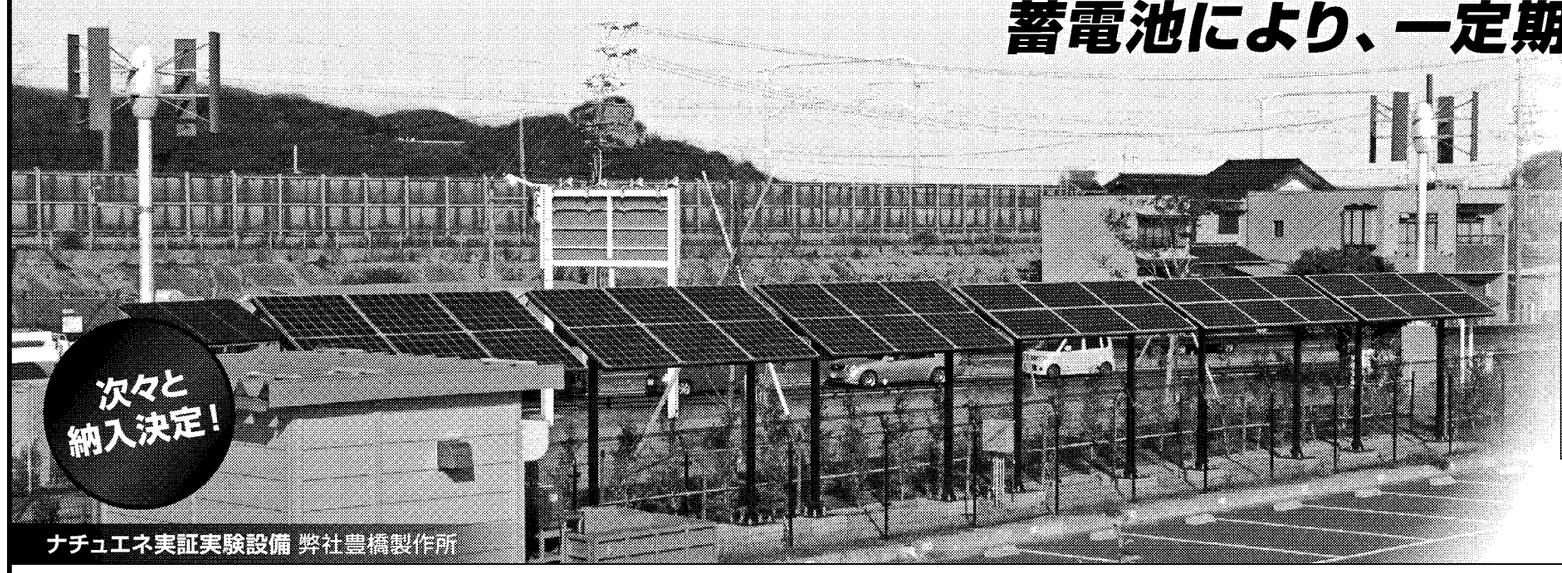
小規模スマートグリッドシステム
ナチュエネ®

20kWタイプ　50kWタイプ

非常時には独立電源　節電・省エネ　ピークカット　CO_2削減

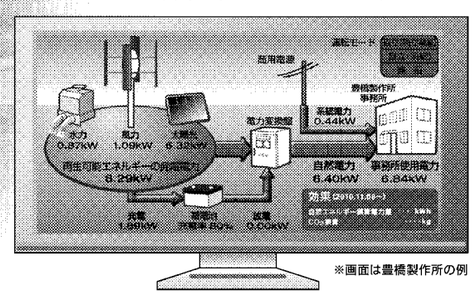
不安定な再生可能エネルギーを自然電力マネジメントシステムにより有効利用。

災害時における停電時にも、再生可能エネルギーと蓄電池により、一定期間の給電が可能！

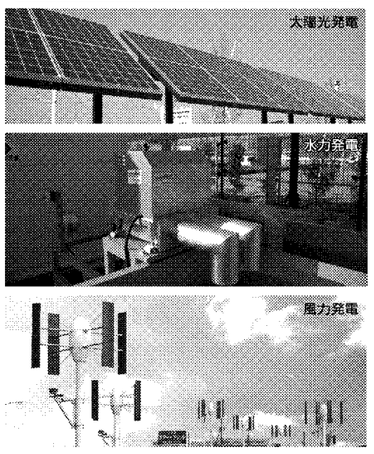


ナチュエネ実証実験設備 弊社豊橋製作所

リアルタイムモニタ（オプション）
現在の発電量や、使用電力量をリアルタイムで監視します。


※画面は豊橋製作所の例

再生可能エネルギー



響いてこそ技術
シンフォニア テクノロジー

シンフォニア テクノロジー 株式会社
（旧）神鋼電機から社名変更いたしました
社会システム営業部　再生可能エネルギー事業開発室
東京本社　☎03-5473-1830　〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー

スマートコミュニティ Japan 2013
右記の2カ所で出展いたします
■スマートグリッド展　東1 SG-37
■植物工場・スマートアグリ展　東2 SA-02